3. 教員の国際的な活動

1) 協定校との交流活動

(1) ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学

2023 年 9 月に看護学部教員がイタリア短期研修引率をした。研修受入れ先である、協定校カ・フォスカリ大学関係者とは、今後の国際交流について協議を実施し、人的交流の再開および継続の方針を確認した。その後も交流は継続し、後述 2)(2)①の日本国際保健医療学会第 42 回西日本地方会では、カ・フォスカリ大学内海博文准教授に学際交流講演を依頼するに至った。

また、この短期研修では大学主催の一般向けキャンパス・ツアーにも参加したが、その際にツアーに参加していた元米国アリゾナ大学教授 Laura Huntoon 氏（都市計画工学）と意気投合し、その後の学際交流に発展した。

2) 民間団体との連携

(1) 国際 NGO ピースウィンズ

特定非営利活動法人ピースウィンズ(PWJ) は、本学と災害時連携協定を締結しているが、看護学部教員は災害時以外に、この NGO の実施する国際人道支援活動に関して技術的協力を継続している。今年度は、PWJ 海外事業部による、ミャンマー避難民に対する救援事業（タイ・カンチャナブリ県サンクラブリ郡におけるミャンマー避難民を含む脆弱な母子支援ボランティアの育成事業）について、計画段階から専門的助言を提供した。同事業は令和 6 年度日本 NGO 連携無償資金協力事業として採択され、次年度は看護学部教員が保健専門家として 2 回短期派遣される予定である。

(2) 学会活動

① 日本国際保健医療学会第 42 回西日本地方会の開催

2024 年 3 月 2 日（土）にオーテピア高知図書館・永国寺キャンパス地域連携棟において日本国際保健医療学会第 42 回西日本地方会を開催した。大会長を木下真里（看護学部教授）が務め、健康栄養学部、看護学部教職員の協力で開催された。ハイブリッドでの開催であり、遠隔通信環境の構築には高知工科大学の協力を得た。テーマを「グローバル・ショックに対応する地域レジリエンスの探究」とし、身近な社会課題の検証から、グローバル社会課題に議論を展開する、という革新的な構成が、参加者の好評を博した。高知の社会課題の提起は、富尾和方氏（高知新聞社記者）、安岡しずか氏（高知県訪問看護連絡協議会会長）、田中きよむ氏（本学社会福祉学部教授）、渡邊浩幸氏（本学健康栄養学部教授）によって行い、内海博文氏（協定校カ・フォスカリ大学）による学際交流講演によって全体の議論を確認した。

② 日本災害医学会国際委員会

今年度より看護学部教員が日本災害医学会の国際委員に就任し、主に、後述する世界災害緊急医療学会 WADEM2025・Tokyo の開催企画、災害看護系国際学会との連携を担当した。

③ 世界災害緊急医療学会 WADEM

看護学部教員は、本学健康栄養学部教員と共同で研究を実施し、2023 年 5 月にアイルランドで開催された世界災害緊急医療学会(WADEM)で成果を発表し、海外研究者と議論を行った。

また、2021 年に東京で開催予定であった同学会は、新型コロナウイルスの世界的流行のために 2025 年に延期された。同教員はプログラム委員としても継続してこの企画にかかわっている。

(3) WHO 企画出版物 World Health Organization: WHO guidance on research methods for health emergency and disaster risk management, revised 2022.

日本語版の刊行にあたり、本学看護学部教員が監訳協力した。

(4) 日米教育委員会

フルブライト米国留学プログラムには、元奨学生である看護学部教員が選考委員として継続して関与している。米国大使館主催フルブライト 2023 奨学生壮行会、大阪支部説明会に参加し、国際交流に関する情報交換および交流を行っている。2025 派遣者の募集情報を学内でも提供している。